

18禁

うす汚い官職ジジイの、エロチ○ポなんかに負けるものがツツ！！

流れ者くのいちの  
立場の弱みに  
つけこみ  
庄屋が暴走暴入！！

「あつはあああんうー！」

スワハハハ

小便・放尿  
潮吹き・生ハメ  
エロ折檻  
大量中出し

お役御免になった  
「くのいち」という年下マ○コ姉妹は、  
仕方なくスケベ庄屋のチ○ポに鳴いた。

だ早い  
えでは

基本CG 17枚 + 差分 = 全 162 ページ

角部屋天国

18禁

エロ庄屋のエロ屋敷で、2人のくのいちの、2つの淫らな肉ツボがオツ開く♡

エロ庄屋のエロ屋敷で、2人のくのいちの、2つの淫らな肉ツボがオツ開く♡

やくごめん  
お役御免になった

「くのいち」という  
年下マンコ姉妹は、

仕方なく

しょうや スケベ庄屋のチンポに鳴いた。な

角部屋天国

戦後の世、城を追放された2人のくのいち穴が、  
エロ庄屋のエロチンポに服従していく好色物語絵巻。

## 登場人物紹介



みつが かねで  
**蜜賀 楓 (23歳)**

蜜賀流の女忍者 (義姉に該当)  
主 (あるじ) の命令を着実にこなし、  
白い肌とみだらな女体で、男の目を  
いつも楽しませてくれる、好色くのいち。



みつが あなか  
**蜜賀 穴華 (18歳)**

蜜賀流の女忍者 (義妹に該当)  
日焼けた肌に、しまった体。..だが  
性格は、まだガキ。今回抵抗むなく、  
エロ庄屋に、その処女を奪われる。



しょうや  
**庄屋 (54歳)**

この村を治める、官職エロ庄屋さま。  
色欲がひどく、若い女の肌を見ると  
見境なしにヤリたがる、猿チンポ人間。  
不気味な酒をもっている..

※レーティング注意：18禁

ククク・いい女体じゃのう♥エロくの一どもよ!  
カネが欲しくば、ワシのエロチンポに鳴きわめけ!!

# 物語絵巻 (あらすじ)

まもなく戦国の時代が終わる..  
それと同時に女忍者も、仕事を失う..  
「...明日から、どう生きる..?」

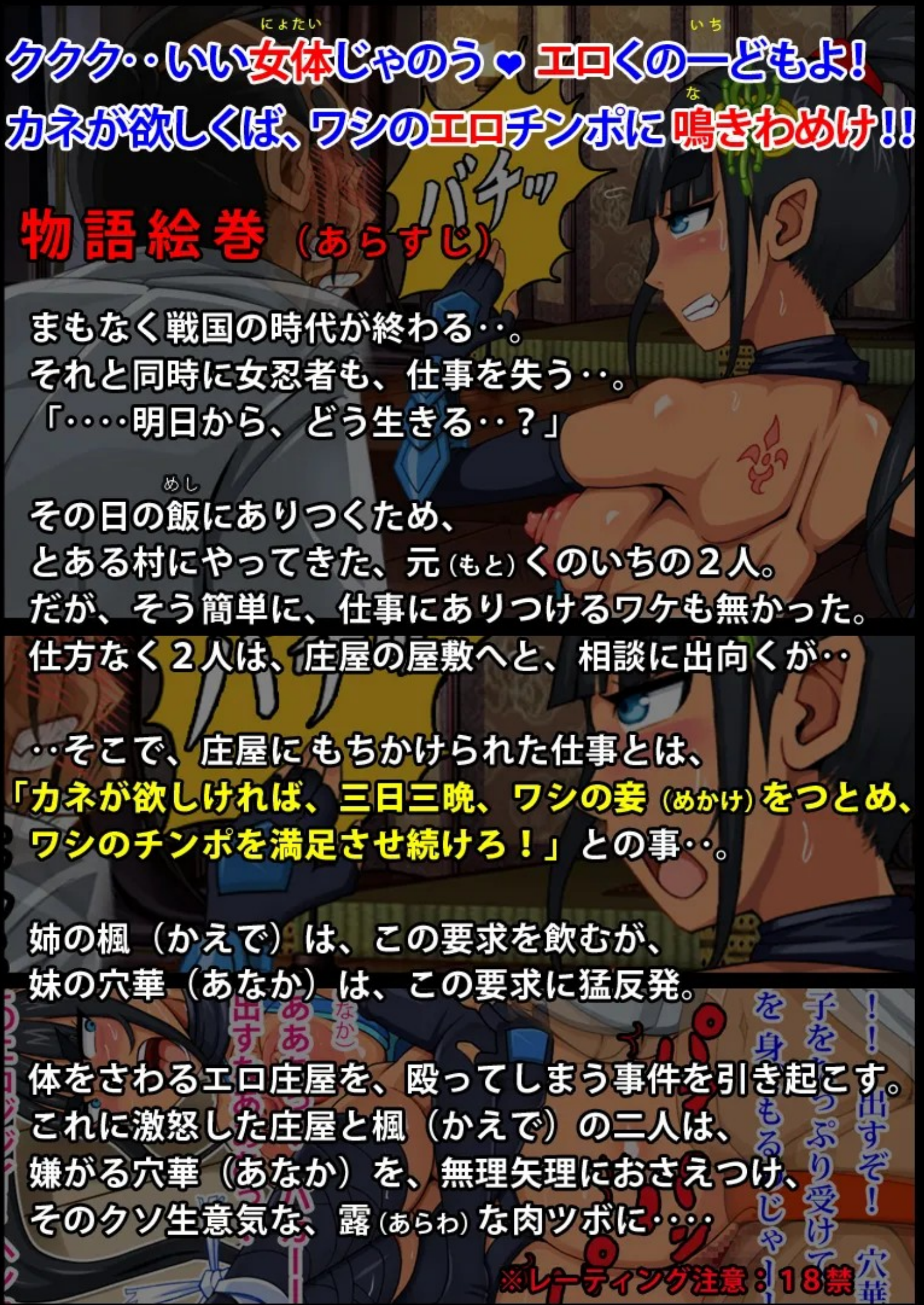
その日の飯にありつくため、  
とある村にやってきた、元(もと)くのいちの2人。  
だが、そう簡単に、仕事にありつけるワケも無かった。  
仕方なく2人は、庄屋の屋敷へと、相談に出向くが..

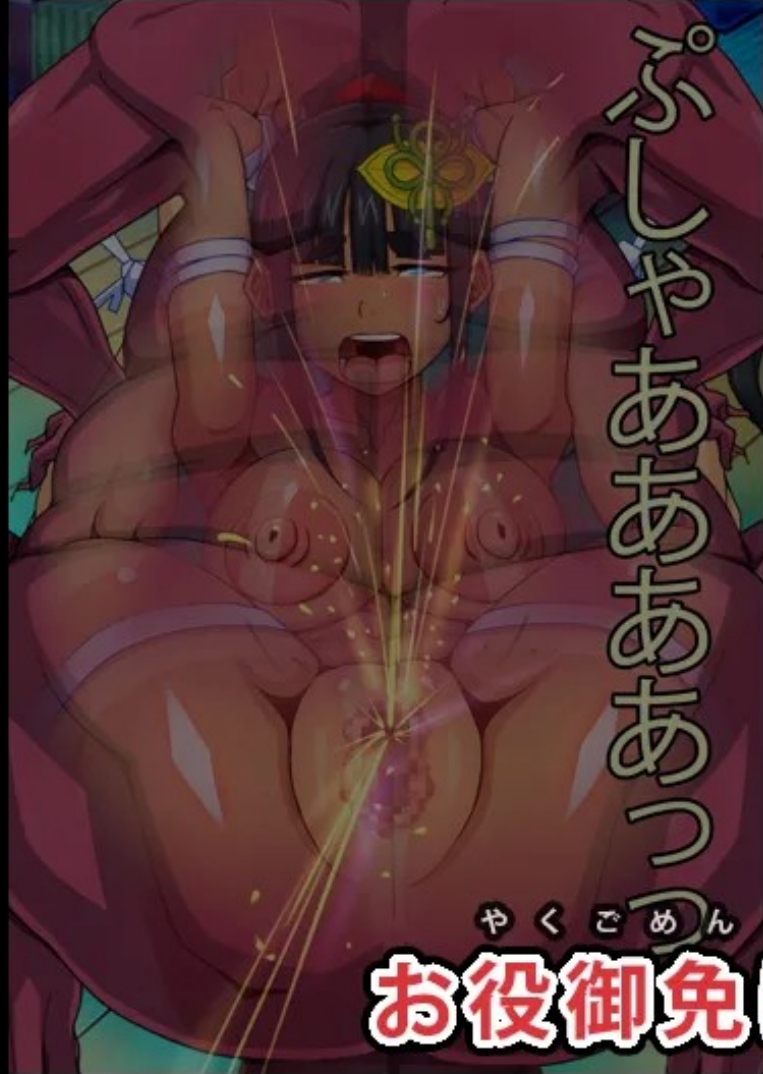
..そこで、庄屋にもちかけられた仕事とは、  
「カネが欲しければ、三日三晩、ワシの妾(めかけ)をつとめ、  
ワシのチンポを満足させ続けろ!」との事..

姉の楓(かえで)は、この要求を飲むが、  
妹の穴華(あなか)は、この要求に猛反発。

体をさわるエロ庄屋を、殴ってしまう事件を引き起こす。  
これに激怒した庄屋と楓(かえで)の二人は、  
嫌がる穴華(あなか)を、無理矢理におさえつけ、  
そのクソ生意気な、露(あらわ)な肉ツボに...

※レーティング注意: 18禁





ぶしやああああつ

やくごめん

**お役御免になった**



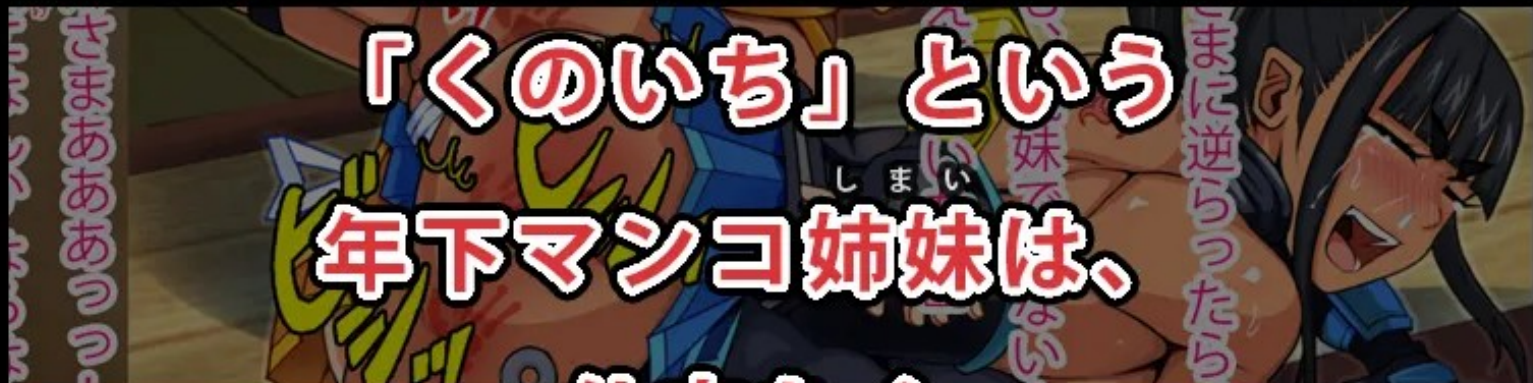
「ば、はい… チンポさま♡  
チンポさまのその、たくましくて太っとい鬼チンポを…」

穴華のいやらしいオマンコに  
もっともっと、突っ込んでかき回してえええエエエ♡

ハァ  
ハァ

モゾ

モゾ



**「くのいち」という  
年下マンコ姉妹は、**

**仕方なく**

**スケベ庄屋のチンポに鳴いた。**



ズン！ズン！ズン！  
ズン！ズン！ズン！

ソラアアアツツツ！  
に出すぞオオオツツツ！」



な

それでは、本編のはじまりです。





時は<sup>とき</sup>1592年。

日本の戦国時代は  
終わりを迎えつつあった。

そして、

戦<sup>いくさ</sup>が終わることにより、  
仕事を失<sup>モノ</sup>う者も  
数多くいた。





- 蜜賀流くのいち -  
みつが かえで  
蜜賀 楓  
(義姉：23歳)

- 蜜賀流くのいち -  
みつが あなか  
蜜賀 穴華  
(義妹：18歳)

戦<sup>いくさ</sup>の時代、  
その美貌<sup>びぼう</sup>と  
高い身体能力をもつて  
敵城へ忍びこみ、  
内通<sup>ないつうやく</sup>役を果たしてきた  
蜜賀流忍<sup>みつが りゆうにん</sup>者「くのいち」…



- 蜜賀流くのいち -  
みつが かえで  
**蜜賀 楓**  
(義姉：23歳)

- 蜜賀流くのいち -  
みつが あなか  
**蜜賀 穴華**  
(義妹：18歳)

彼女たちもまた、

戦いくさが終わると、仕事は消失。

今までお仕つかえしてきた

主様 (あるじさま) より

**お役御免**やくごめんを言い渡され、  
お城を追放される。



- 蜜賀流くのいち -

みつが かえで

蜜賀 楓

(義姉：23歳)



- 蜜賀流くのいち -

みつが あなか

蜜賀 穴華

(義妹：18歳)

「自由」<sup>じゆう</sup>は手に入れた。

・だが、

これからは

自分たちの力で

生きてゆかねばならない。



穴華 (あなか)

「姉さまあね…これからあたしたち

どうやって

食べていけばいいの…？」

楓 (かえで)

「そうね…

まずは、今晚泊まる宿に

ありつきましょ…」

くのいち姉妹は、

次の居場所・仕事を求めて、さまよう。





楓  
(かえで)

「あ、あのう、すみません。」

村人

「ん？何だ？」

「おめえさんたち？」



楓  
(かえで)

「この村に、私たちに  
させてもらえる、  
仕事はありませんか？」

村人

「は？ 仕事？ この村に  
仕事が無いからだ？」



村人

「ハハハハ！」

こんなクソ田舎いなかの村に、  
仕事なんてあるもんかー！」

楓 (かえで)

「実は私たち、  
お金に困っているんです！」

穴華 (あなか)

「今晚、泊まる家が無いの！」



村人

「何だ。おめえさんたち、  
よそ者か。」

だったら

この村の、しやうや庄屋さまにでも  
相談してみろ。

仕事を

もらえるかもしれねえよ。」

楓 (かえで)

「え？ しやうや庄屋さま……？」

村人

「ああ。だけど用心しろよ。

あの庄屋しやうやさまは、**色欲**しきよくがひどいお方だからな。

そんなハレンチかじりな格好かっこうのままでは絶対行くなよ。  
何されるか分かんねえぞ。」

楓 (かえで)

「え？ 庄屋さまは、

色欲がひどいお方なのですか？」

村人

「ああ、ひどいひどい。あの庄屋さまは**好色家**<sup>ヘンタイ</sup>だ。女をかどわかす、怪<sup>あや</sup>しい酒も持ってるしな。」

穴華 (あなか)

「…え？ あやしいさけ？」

村人

「そうさ。この前も、よそから来た若い娘が、庄屋の**妾**<sup>めかけ</sup>にされて、何人も身ごもったんだぜ。」

楓 (かえで)

「…そ、そうなのですか？」

村人

「まあ、そういうことだ。行くんなら用心しろよー。  
そんなオツパイ丸出しのままの、  
ハレンチな格好では絶対行くなよー。  
あのお方に、すぐに孕はらませられちまうぞー。  
ハハハハッ！」

楓  
(かえで)

「は、はい、分かりました！  
ご忠告ありがとうございますー！」

「…あの村人　：本気で言っていたのかしら？

それとも、冗談なのかもしれないけれど：

とにかく、実際に行ってみるしかなさそうね：」

くのいちの二人は、早くも忠告を忘れたのか、  
そのハレンチな服装のまま、

エロ庄屋のエロ屋敷(?)に出向いてしまった。



庄屋の屋敷の前

楓  
(かえで)

「ごめんくださいーい。」

庄屋さまは、おられますかー？」





- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)

庄屋

「ん？ 何だ？

おまえたちは・・・？」



- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)



楓  
(かえで)

「庄屋さま、私たちをぜひ  
ここで働かせてください！」

庄屋

「はあ？ バカを抜かせ。  
ワシは、働き手など  
募<sup>つ</sup>っておらぬぞ。」



- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)



楓  
(かえで)

「実は私たち、手元に  
お金が無いんです！」

穴華  
(あなか)

「今晚、泊まる家が無いのー！」



庄屋

「…ほう、なるほど。」

おまえたちは、よそから来た流れ者か…。  
仕事も身寄りも無く、  
金にも寝る場所にも困っておるのだな？」

- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)

楓 (かえで)

「はい。そのとおりで  
びびります。」

穴華 (あなか)

「そっなのー！」

庄屋

「…いいだろう、分かった。

…どころでおまえたち。

いい**体**をしておるではないか。

…実に美しい。フフフ。

あそばせておくには、もつたいない  
ほどの、**女体**によたいじゃ。

…どうじゃ？ 金に困っておるのなら、

**ワシの相手**をしてゆかぬか？」



楓  
(かえで)

「えっ?」

「**相手**<sup>あいて</sup>と申しますと?」



庄屋  
「ククク。分かっておろうが。  
ワシのめかけ妻になれと  
言っとるんじやよー!」

## 庄屋

「ズバリ言おう。おまえたち、今日より三日間、

ワシの女になれ！ 毎日ワシのイチモツを受け入れ、  
ワシのシモを喜ばせるのじゃ！

そしたら報酬として、

おまえたちに、3両ずつ支払おう！」

穴華（あなか）

「さ、**3両**ツツツ!?」

楓（かえで）

「み、三日三晩の相手で、**3両**もいただけるのですか!」

庄屋

「ああやろう。ワシは庄屋じゃからのう。

年齢<sup>とし</sup>は食っているが、金だけは

いくらでも持っているぞー! ブワハハハハ!」

楓  
(かえで)

「わ、分かりました、庄屋さま。

その役目、：引き受けさせていただきます。

今日より三日三晩、わたしたち二人の

この胸と、このオマンコは、庄屋さまだけのもの…♡

存分にご堪能たんのうくださいませ♡」

穴華 (あなか)

「ええっ!?! あ、姉さまっ!?!」

わたしは嫌いやでございますっ!?!」



庄屋

「ほう！ おまえたち！

あの城で、くのいち稼業をやっておったのか！」

楓 (かえで)

「ええ。そうでございいます…」

もみ

もみ



庄屋

「…だとすれば毎晩、ワシのほかにも

いるんな男に、こんな風に、抱かれてきたのか…？」

楓 (かえで)

「さあどうかしら… そんな過去の事は、

もう忘れてしまいましたわ ♡

…だって、今のかえでは、

庄屋さまだけの女なのですもの ♡」

もみ

もみ

ハア  
ハア

庄屋

「ククク、こいつ、とぼけおつてからに。かわいいのう♡  
ところでかえでよ。おまえはくのいちじゃというのに。

。この肉。この柔らかさ。実にいい女体じゃのう。!

虜とらになつてしまひそうじゃわい!」

ハア  
ハア  
楓 (かえで)

「いやだわ庄屋さま。そんなにいやらしい目で、  
ジロジロ見ないでください♡  
かえで、恥ずかしいわ。♡」

楓 (かえで)

「あん…♡ もう庄屋さまのオチンポ、ビンビン…  
かえでのオマンコに、当たっちゃってるぅ♡」

すり

すり

庄屋

「はあはあいいぞ。かえで！ もっと刺激してくれ！」

楓 (かえで)

「庄屋さま♡」

「まだ発射しちゃうダメですよ♡♡」

すり

すり

すり

ハァハァ

庄屋

「ああかえで! たまらん! ワシはもう発射したいぞ!」

楓 (かえで)

「ウフフフ♥もう出しちゃうっ?」

ハァ

ハァ

すり

すり

すり

すり

庄屋

「ああ、もう出しちゃう! ほら、そこにいる女!

おまえも一緒にこっちへ来い! ワシの精液を飲めっ!」

興奮した庄屋は、

自分の精液を飲ませようと、

もう一人のくのいち「穴華」の腕を引っばった  
その時だった！

バチイイイイイ  
ツツツツツ  
！！！！





穴華 (あなか)

「さわるなっ! この変態ジジイっ!」

パチッ

なんと穴華は、庄屋の頬ほを、  
反射的にひっぱたいてしまった。



鹿屋

「きさまっ！？何をするッ！？」

楓 (かえで)

「穴華っ！」

「庄屋さまに向かって、何でいっせー！」

穴華 (あなか)

「うるさいっ！ あたしはアンタの妾めかけになるなんて一言も言っていない！ そんな汚れたいやらしい手であたしの体に、気安くさわるなっ！！」

庄屋

「ほう、女。ワシにだてつく気が！？」

穴華 (あなか)

「だったら、何だっただよ！  
このエロシジイ！」

産屋

「ククク… いらのう、いらのう、  
若いおなごは…」

気が荒く、まっすぐで、恥じらいを持つ…  
何と正回い生き物なのじゃ…！ クククク！

それどころ、この三日間、  
貯める<sup>おとし</sup>楽しみが増えるというものよー！





穴華 (あなか)

「コイツ！ 狂ってるのか？」

あたしは、アンタなんかに仕えない！

あたしは、くのいちよ！

おまえごとき、いつだって殺せるんだ！

なんなら今ここで、

おまえの喉を、かき切ってやるうか！」

楓  
(かえで)

「やめなさい穴華！」

庄屋さまを手にかけたら、私が承知しないわよ！」

穴華  
(あなか)

「で、でもっ……！」

楓 (かえで)

「私たちは、庄屋さまのご依頼を引き受けたんだ！  
これは仕事！ 途中で放棄するなんて  
くのいちとしてあるまじき行為ッ！！」

あなたのその緩ゆるんだ性根を、  
今からたたきなおしてやるわッ！」



穴華 (あなか)

「きゃあああつ!!?」  
「何をすのつ!!?」

姉さまつ!!?



楓 (かえて)  
「うるさい!!」  
「早くお尻を出せつ!!」





楓 (かえで)

「穴華っ！ 戦の時代はもう終わったのよ！  
いつまでも人を殺めて、この世の中を、  
本気で渡っていきけると思っているのー！」

穴華 (あなか)

「で、ですが、姉さまっっ！」



楓(かえで)

「あなたも いい年なのよ！  
これからは、人に快樂かつらぐを与える術すべも覚えなさい！



まずはここで二日間

庄屋さまのシモのご相手をするの！

庄屋さまのシモを喜ばせ、シモにきもちよく  
射精すべしていただく術すべを学ぶのよー！

穴華 (あなが)

「絶対、嫌ですツツ！」

あたしはアイツを殺すツツ！」

あたしはこれからも、くのいちとして生きていくんだっ——！」

楓 (かえで)

「このバカッ！」

甘ったれたこと言ってんじゃないわよ——！」



楓 (かえで)

「穴華っ！ 今度、庄屋さまに逆らうたら、  
もうお前とは絶縁よ！  
お前など、もう仲間でも、義妹でもない！  
どこへでも、勝手に消えちまいな！」

穴華 (あなか)

「ゼツタイ嫌です！ 姉さまあああつっ！！  
あたしは、アイツの妾になんかならない！  
それにあたしは、姉さまからも、絶対離れないっ！」



楓 (かえて)

「あきれた！」

何て聞きわけのないバカ娘なの！お前は！

お前のようなわがままなヤツなど、

もう顔も見たくない！

金輪際、こんりんざい私の前に姿を現わせるな！

今すぐここを出てゆけ！」

穴華 (あなか)

「嫌です！ 姉さまあぁっっ！！

穴華は、一人では生きてはゆけませんっ！

穴華は、姉さまがいないと、何もできませんっ！」



## 庄屋

「ヒヤハハハハハッ！　いいのう、かえでー！　

躡しつけが、ゆきとどいておるわい！

ワシの**股間**が騒さわいでしょうがないぞ！

ああ、もうガマンできんっ！

もう、そやつ**の肉ツボ**に、ワシの肉棒を

タツプリと奥まで…！　挿入させておくれッ！」

楓  
(かえで)

「ええ庄屋さま♡

この、甘ったれた**小娘の肉ツボ**に：

**現実の厳しさを、**

タツプリと教え込んでやってくださいな♡」

庄屋

「ビヤハハハハ！いれるぞー！ー！ー！」

ズブズブズブズブズブ！ー！ー！

穴華  
(あなか)

「い、イタイいらいらー！ー！ー！」



穴華 (あなか)

「ご、ごらっ！ エロジジイッツー！  
汚いチンポ、勝手にいれるなー！！」

パッコ

パッコ

庄屋

「ヌオオおおツ、せ、せまいのら…！！  
ハアハア、この娘は一体いくつなのじゃ？」

楓 (かえで)

「今年で18歳でいられます。庄屋さま。」



庄屋

「ほう！18（歳）か！ どおりで！

穴華とやらよ！

そちの肉ツポは、よくしまつて窮屈じやのー！  
実にきもちがいいぞー！

ククク…！ くのいちどいえど  
ここは、鍛えられんからのうー！

…おまえの中の、  
ミミズ千匹が  
ワシのチンポに絡みついで、  
喜びさわいでおるわい！！



穴華 (あなか)

「う、うるさいバカ!

そんなのいるか!

お前のチンポなんか、全然きもちよくないわ!

あたしは、姉さまの指示に従って、

仕方なく、挿れさせてあげてるだけだ!

さっさと射精して終わらせる!!  
このエロジジイ!!」



庄屋

「ヒビヒッ！ 元気なおなごじゃのう！  
今は、ワシの慰み物なぐさじゃというのに！」

穴華あなが

「うるさい！ カン違いするなよ！」

ちよつとでも、変な動きをしてみろ！

今ここで、おまえを

切り殺してやるからなっ！」



庄屋

「ビヤハハハッ！ よく鳴く犬いぬじゃ！  
でもオマンコは、こーんなに濡れとるぞー！  
ほーれほーれ！」

穴華あなが

「あんっ！」

「あんっ！」



庄屋

「のう、かえで。」

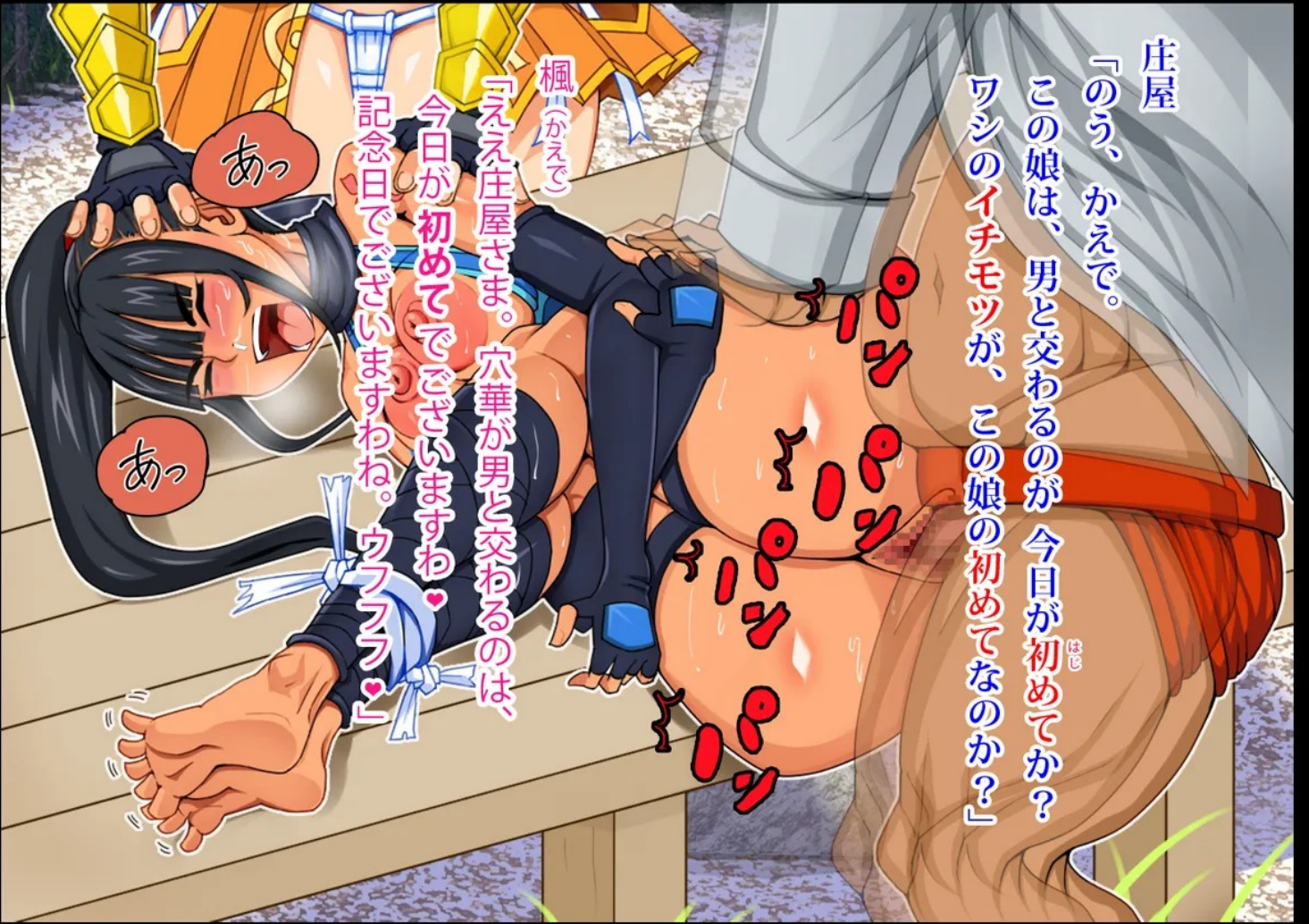
この娘は、男と交わるのが今日が初めてか？  
ワシのイチモツが、この娘の初めてなのか？

楓(かえで)

「ええ庄屋さま。穴華が男と交わるのは、  
今日が初めてでございますわ。ウフフフ、  
記念日でございますわね。ウフフフ、」

あっ

あっ



庄屋

「そうか そうか！ 嬉しいのう！ 夢があるのう！  
こやつ肉ツボが、わしのチンポの形に染まるまで、  
毎日毎日、かわいがってやらねばのう！！」

楓  
(かえで)

「ウフフ。よかったわね穴華。

庄屋さまが、あなたのオマンコをお気に入りよ

毎日、ご相手してもらえるそうだから、

あなたも、タツプリお勉強しなさい♡」

あっ

あっ



庄屋

「よおーし!!! 出すぞ! 穴華っ!!!」

ワシの精子をたっぷり受けて、

ワシの子を身ごもるのじゃーっ!!!」

穴華 (あなか)

「いやあああつ! バカーッツ!!!」

絶対出すなああつ!!!

「このエロジジイ! ヘンタイ! ドスケベッ!  
おまえなんかそこで死ねーっつっ!!!」









ジュツジュツジュツジュツ

穴華 (あなか)

「いやあああつ キモイイっ!」

庄屋

「あああ! 最高じゃぞ!

穴華っ!」



楓 (かえで)

「…ねえ庄屋さま。穴華ばかりずるいですわ！  
かえでのオマンコも、庄屋さまのオチンポで  
かきまわしてくださいな。」

庄屋

「おお、すまんすまん！  
かえで！おぬしもかわいがってやらねばのうー！」

穴華「…。」







くぱあ♡

庄屋

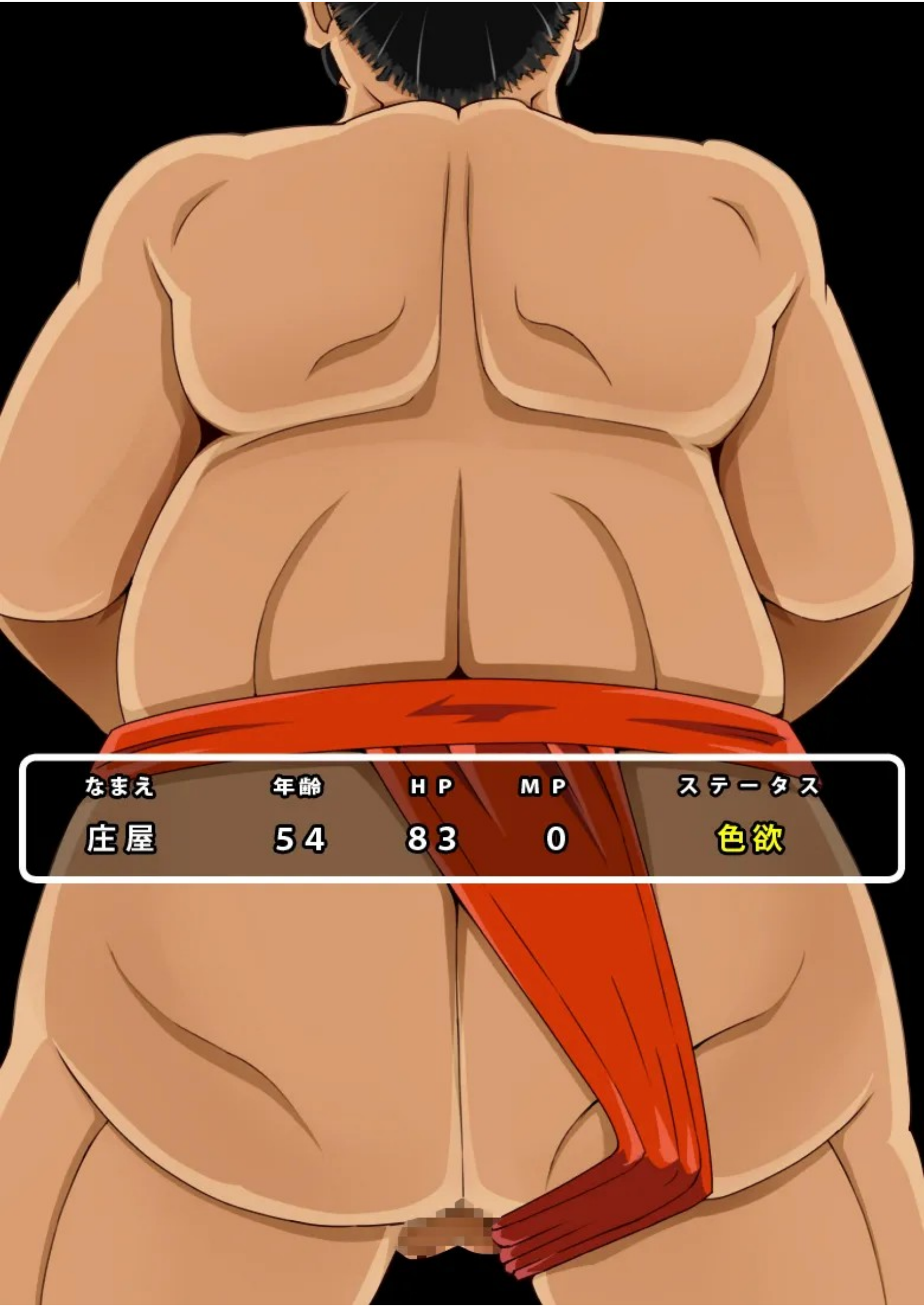
「おおお、準備万端じやのう〜♪」

楓 (かえで)

「ウフフ ♡」

くぱあ♡





なまえ

年齢

HP

MP

ステータス

庄屋

54

83

0

色欲



ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん

楓 (かえで)

「あっはああん。庄屋さまあっ

オチンポ、カッタああいいいっっっ」♡

庄屋

「ハアハア、か、かえで…

そちの肉ツボは、何と具合がいいのじゃ…!!

い、挿れただけでもう、イキそうじゃわいっ…!!」



グツチユー!

グツチユー!

グツチユー!

楓  
(かえで)

「あああんっ!

庄屋さまっ、庄屋さまっ、庄屋さまっ、庄屋さまっ、

庄屋さまっ!

庄屋さまあああんっっ!」

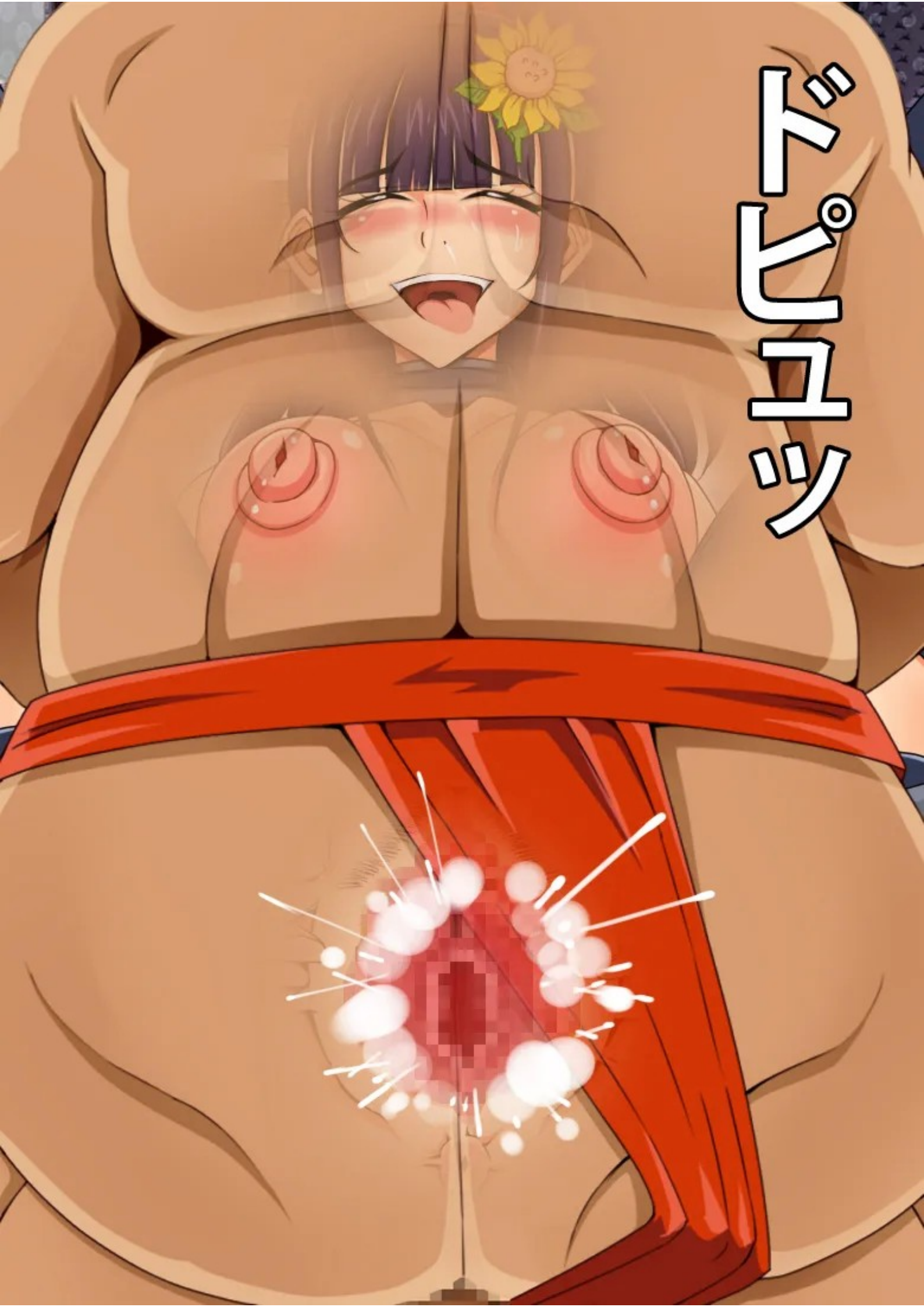
庄屋

「ああああっ! かえでっ! ダメじゃ!

ワシはもう、イッてしまっぞっ!」



シュートド







楓 (かえで)

「はあはあ… 庄屋さまっつたら  
もうイツちやつたの？」

「まだ早いのですわあ…  
かえではまだまだ足りませぬ♡」



庄屋

「ハアハア： かえでよ。ワシは精子の出しすぎで、  
疲れたわい：。ちよつと待つとれよ：。魔蟲酒を飲むから。」

ハア

ハア

楓 (かえで)

「え？ マムシざけ：？」

何ですのそれ？」



まむしぎけ  
「魔蟲酒」

マムシシユ



その昔、鬼の一族

「酒呑童子しゅてんどうじ」が

複数のメス鬼らと

交尾をする際、

好んで飲んだと

される酒。

（精力絶倫・強壯剤の

ような効果がある）

まむしぎけ  
「魔蟲酒」

マムシシユ



…この酒を一口飲むと、

どんなジジイでも、

辜丸こうがんまわりの血流が

活性化され、

人間離れした

「鬼オニボツキカ」を

得るとされている。

楓  
(かえで)

「ウフフフ♥そうでしたの！」

それは楽しみですわあ♥」



ゴクツツゴクツツ

庄屋

「ウガアアアアアッ!!!」

楓  
(かえで)

「ぎゃああああっ!?!」

軽いバケモノと化した、庄屋は、  
かえでとの交尾を再開した!







庄屋

「ヌオオオツッ！ きもちいいのオツッ！ カエデよツッ！  
ワシの腰が止まらんわい！」

パッ  
パッ  
コ  
コ

楓 (かえで)

「あああんっ 庄屋さま！  
チンポがさつきより、  
全然大きくてカタいですっっっ！」

庄屋

「どうじゃアアツツ！カエデよツツ！

ワシのチンポは、きもちいいじやろうガアアツツ！！」

楓 (かえで)

「ああんっ庄屋さまっ！きもちいいですっ！

もっと奥まで、ぶち込んでええっ♡」







ゴキウ

ゴユツ  
ゴユツ  
ゴユツ  
ゴユツ  
ゴユツ

楓 (かえで)

「あっはあああんっ！」









庄屋

「オオオオツ カエデーツ

見事な潮吹しおふき桜さくらじゃー！ いやらしい眺めながじゃのオオツ♡」

かえでは、  
たまらず潮を吹いてしまった！



## 庄屋

「フフフフ：：！」

あれほど射精したのに：イチモツが萎えない！

ボツキ力が維持されたままだ：：！」

さすが魔蟲酒マムシシユ：：！　まだまだ射精できろぞ！」

庄屋

「ククク…！」

さあて、次は……！」



穴華「…ん？」

穴華 (あなか)

「ゲツ!?!」

エ、

エロジジイツ!?!

…な、

何だその肌の色ツ!?!

おまえ、まるで物の怪モノノケじゃないか!

…おまえ人間やめたのかよツ!?!」



庄屋

「バーカ。人間をやめたのでは無い。。」

魔蟲酒を飲んで、鬼の性欲を得たのよツ!

「ブワハハハハ!」

穴華 (あなか)

「…ま、ママシシユ…?」



庄屋

「クククク！ 穴華！

今からおまえのクソ生意気な、クソガキマンコに、  
ワシのえげつない鬼チンポを、  
タツプリくれてやるからのう〜！ 覚悟せえよ！」

穴華 (あなか)

「いやあああつ〜！！

寄るな！

来るなツツ〜！！」



なまえ	年齢	HP	MP	ステータス
才二庄屋	54	444	0	性欲絶倫



ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん

穴華 (あなか)

「や、やめる、バケモノッ！ エロシシイッ！

あっち行けよー！ そんなのムリイッ！

あたしのオマンコ、こわれちゃうってッ！」

庄屋

「やかましい！ 小娘ッ！」

庄屋

「ブワハハハハ！ 小娘ー！ー！

お前の性欲も、だいぶ開発されてきたじゃないかー！

このスケベクソガキめ！ ここはもう感じてきとるぞツ！」

ズッコ  
ズッコ

ズッコ  
ズッコ

穴華 (あなか)

「ち、ちがうつ！

あたしは感じてなんか無いツー！」

ズボツ！ズボツ！ズボツ！ズボツ！ズボツ！

庄屋

「ウソをつけ！ じゃあコレはなんだ！ お前の肉ツボの奥から、  
汁が、どんどんあふれてきとるじゃないか！」

グキョウ  
グキョウ

穴華 (あなか)

「だ、だってそれはっ…！ そんなに激しく  
オマンコ突かれたら… もうガマンできなくな…るツ…！」

A close-up, top-down view of a red, segmented insect body, likely a beetle or similar creature. The segments are large and rounded, with dark red outlines. The background is a blurred green and blue, suggesting an outdoor setting.

穴華 (あなか)

「もう、ダメえええっ！」

あたしのオマンコ、もうガマンできないうのおおおッッッ!!」





穴華 (あなか)

「嫌あああつ！ 見ないでえええつ！」

ジヤアアアアアツ

庄屋

「ヒヤハハハハ！」

きもちよすぎて、潮をもらしておるわ！

なんてはしたない、クソガキなんじゃお前は！」

庄屋

「…そんな、はしたないお前の肉ツポに、  
ワシからのごほうびを、タツプリ流し込んでやる！」

受け取れツツ!!!!!!」









びゅっ

びゅっ

びゅっ





庄屋

「どうじゃー！

穴華ッ！

魔蟲酒の力で、  
元気になったワシのチンポは、  
最高じゃろうがッ！

もったかき回してほしかったら、

ワシのチンポサマ様マに向かって、  
エロい声でお願いしるッ！

穴華 (あなか)

「は、はい… チンポさま♡

チンポさまのその、たくましくて太っとい鬼チンポを…

ハア  
ハア

モゾ

モゾ

穴華のいやらしいオマンコに  
もっともっと、突っ込んでかき回してええええエエエツツ♡





ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん ぱっぴん

庄屋

「どうじゃ穴華ッ！」

もう、ワシのチンポ無しでは、生きてゆけんじやろうガッ！」

あっ

あっ

穴華 (あなか)

「は、はいっチンポさまっ♡」

チンポさまの、鬼チンポサイコーッ♡

もう、オチンポ無しでは、生きてはゆけないのっっー！」

パン！パン！パン！パン！

穴華 (あなか)

「ああんっ♡チンポカタイツ！カタイオチンポだあい好きっ！  
もっとなぐりてええッ 穴華のオマンコかき回してええッ♡」

あっ ♪ あっ ♪ あっ ♪ あっ ♪

庄屋

「ブワハハハハ！穴華ーッッッ！  
お前も、スケベになりおったのおおーッッッ！」

パン！

パン！

パン！

パン！

穴華 (あなか)

「あああんっ チンポさま！ あたしを！

この穴華を！

チンポさまの肉ツポオマンコヘンタイ便所女に

してくださいああいつっツツッ！♡」

庄屋

「よおおし穴華！ 喜べッ！

おまえを、ワシ専用便女にしてやるぞ！

ワシの精液を、すべて飲み干すのじゃあああツツツッ！！」

あッ

あッ

あッ

あッ



ズン  
ズン  
ズン





ビュッ  
ビュッ

ビュッ

穴華 (あなか)

「あっはああああんっっー」



穴華 (あなか)

「はあはあ ヤバイ…♡ きもちよすぎで、

あたしのオシッコ、全部もれちゃうのとおおおっ♡

チンポさまあぁ、あたしのショウベン

全部、飲んでええええっ♡」











庄屋

「…ウツ!?!」

…ん  
これはツ!?!」



庄屋

「…しまった！これは、ワナかつ！」

ね、ねむい……っ！！

…ワ、ワシを、ねむ眠り香がの小便臭しょうべんいしゅうで、**気絶させるとは…！！**  
さすがは、くのいち…！！  
予測もしなかったわ…！！」





楓 (かえで)

「ウフフフフ♥穴華ツ！ やったじゃない！  
上出来よ！ ぐっすり寝ちやってるワ♥」

穴華 (あなか)

「はあはあ、姉さまあつ

あたし、オシツ」止まんないよおおつ」

なまえ

年齢

HP

MP

ステータス

オニ庄屋

54

84

0

深い眠り



みつがりゅう  
さいしゅうおうぎ  
蜜賀流 最終奥義

放尿忍法

# くのいちの黄泉おくりよみ

性交中の相手に、ひそかに  
眠り香入りの小便をぶっかけ、

性交相手を、深い眠りにいざなう  
究極の放尿暗殺忍法……

蜜賀流 最終奥義

放尿忍法

みつがりゅう

さいしゅうおうぎ

# くのいちの黄泉おくり

よみ

…この小便をかぶった者は、

最低でも10時間、眠ったままの

昏睡状態が続くため……

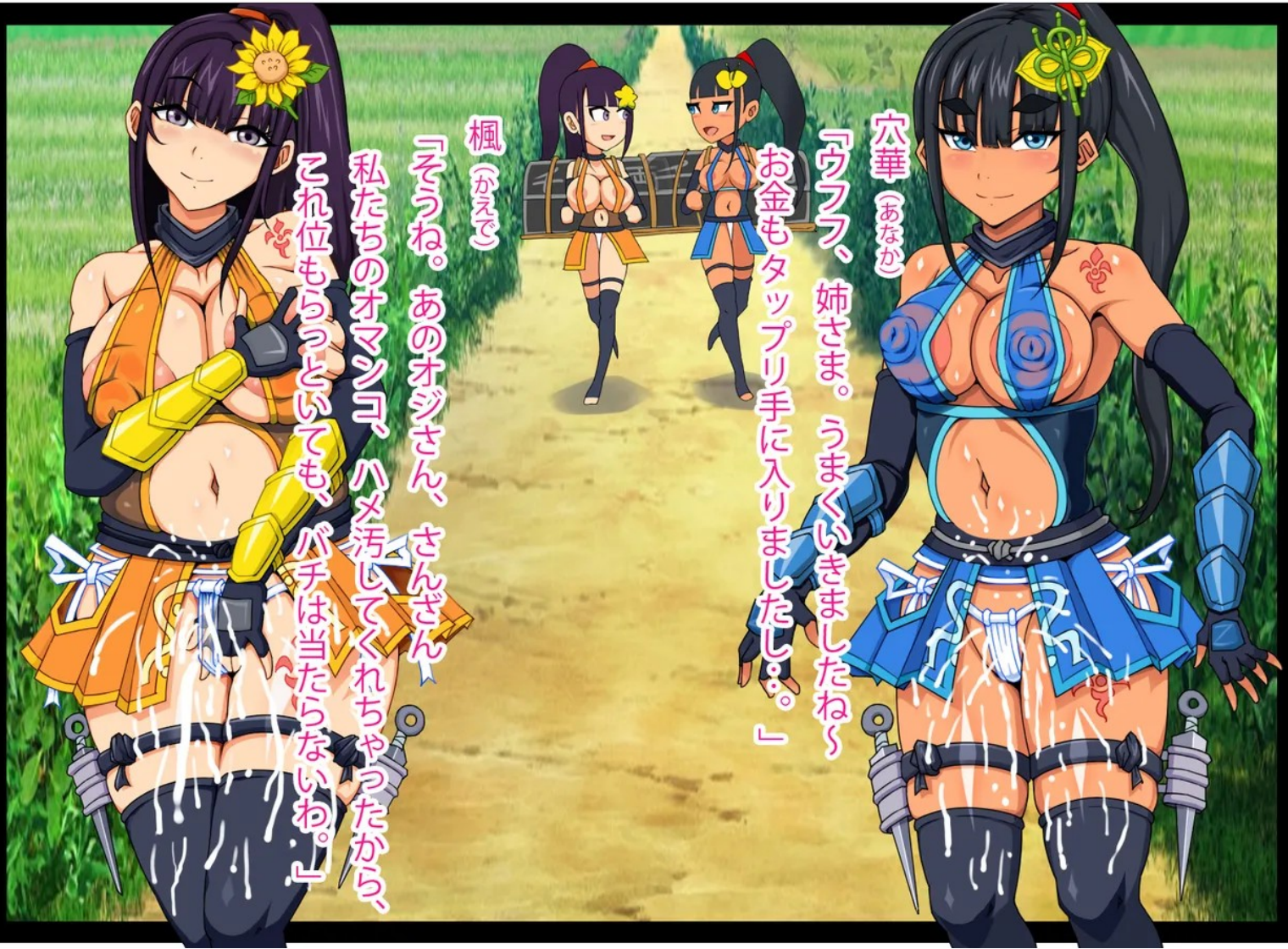
金品・財宝を盗まれる被害や、

くのいちの手により、そのまま

命を落としてしまう者まで

いたそうな。……放尿おそろしや。





穴華 (あなか)

「ウフフ、姉さま。うまくいきましたね。お金もタップリ手に入りましたし。」

楓 (かえで)

「そうね。あのオジさん、さんざん私たちのオマンコ、ハメ汚してくれちゃったから、これ位もらっつといても、バチは当たらないわ。」

穴華 (あなか)

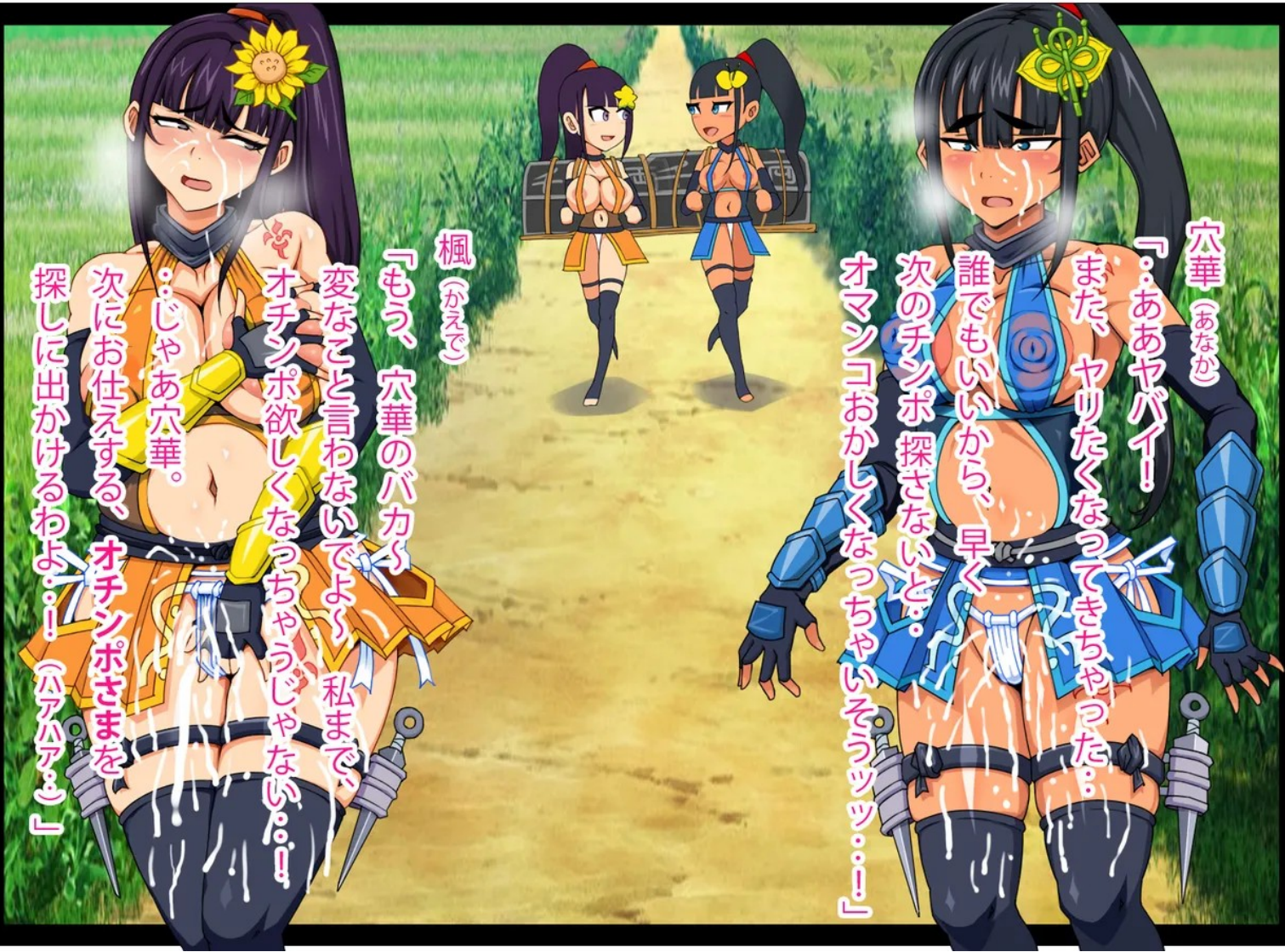
「でも姉さま。あたし、あのエロシジイに初めてヤラれて、チンポが好きになっちゃいました。」

時々、オマンコをいじっていないとチンポがほしくて、たまらなくなっちゃうんです。」

楓 (かえで)

「そうね。結局あたしたちも、あの、エロチンポ忍法にハマってしまった。ドヘンタイくのいちなのかもね。(ハァハァ)」





穴華 (あなが)

「ああヤバイ!

また、やりたくなってきちゃった。

誰でもいいから、早く

次のチンポ探さないと。

オマンコおかしくなっちゃいそうツツ……!」

楓 (かえで)

「もう、穴華のバカさ

変なこと言わないでよ。私まで、

オチンポ欲しくなっちゃうじゃない……!!

……じゃあ穴華。

次にお仕える、オチンポさまを

探しに出かけるわよ……! (ハァハァ……)」



あぁ♡

エロくのいち姉妹の旅は続く

次のエロチンポ主<sup>おふし</sup>さまを求め、

・女たちの欲求不満を満たしてくれ、

穴華 (あなか)

「ほ、はい姉さまッ!

一刻も早く、次のオチンポさまを探して

出かけましょう!♡

最後までお読みいただきありがとうございました。

最後に巻末付録、

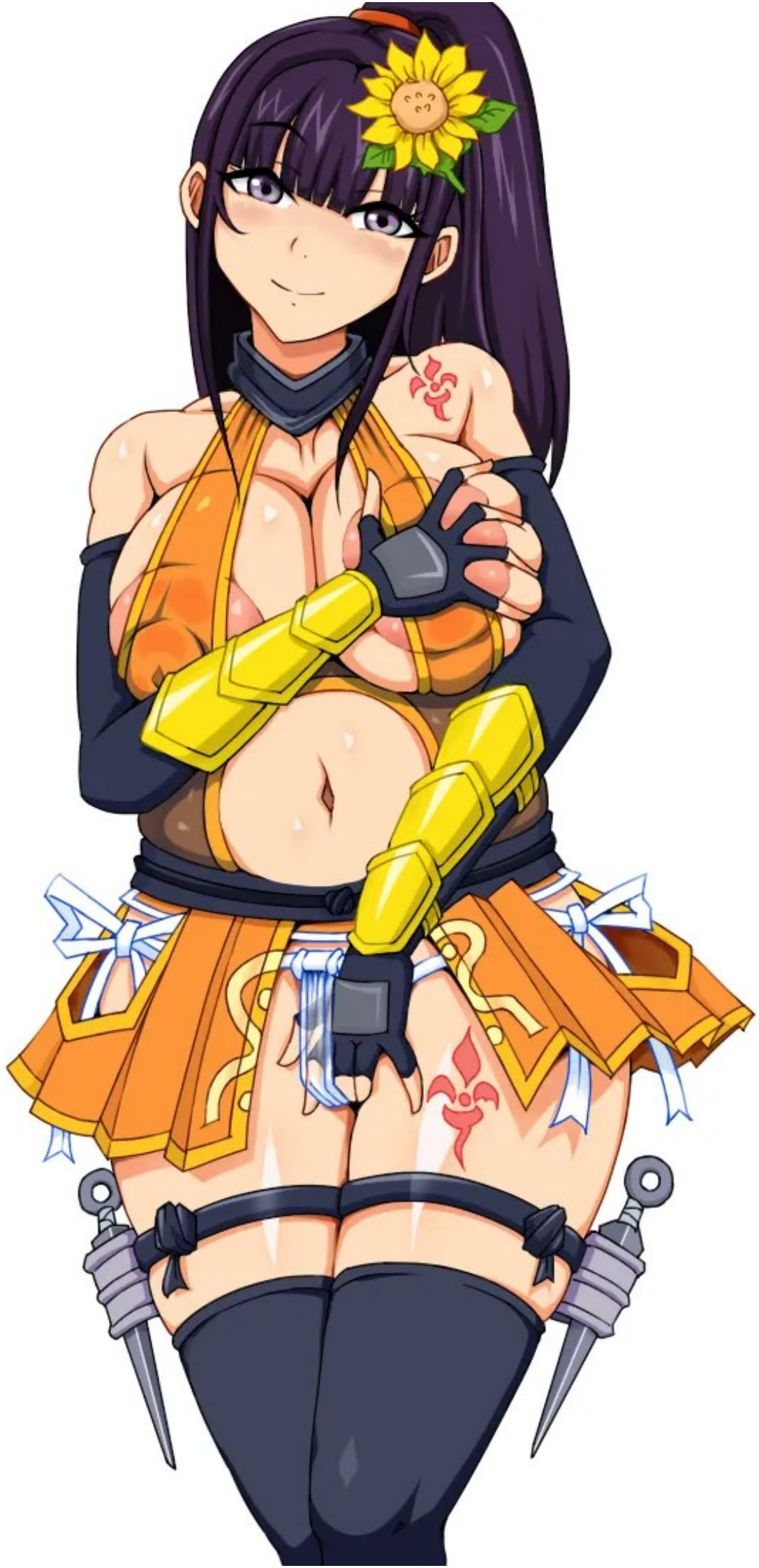
楓、穴華の（背景無し）立ち絵の納入を  
もちまして、お開きとさせていただきます。

この度は、当サークル作品を

お買い上げいただき

まことにありがとうございます。

次回作は、20年度末か、21年度春頃公開を  
目標に、2次工口作りにまい進してまいります。



くのいち

みつが  
かえで

蜜賀 楓  
(23歳)



くのいち

蜜賀 みつが

穴華 あなか

(18歳)





はああ

あは

またね♡